

5 私たちは何をするの？

お願いしたいことは3つあります。

① 趣意書等の送付、各種イベントの案内を送りたいので、名簿を整備しているため、各種情報を各自で入力してください「名前、学部、メアド、電話番号(任意)」。 ⇒ [8 の連絡先 登録フォームへ](#)

② この記念行事は、1994年卒の同期全員が参加して欲しいと願っています。そのためにも是非、声掛けに協力して頂きたいのです。

⇒ それぞれが声を掛けて、また声を掛けられた人が新しい人に声を掛ける…

この繰り返しで同期の輪をつなげていくしかありません！そのために学部・クラス・サークル・ゼミ・体育会・会社・地域・出身校という枠組みで声掛けを網の目のように実施していきたいと考えています。その網の目をできるだけ細かくするためには、組織だって一斉にやる必要があります。できればその組織に名前を連ねて、実行委員と一緒に活動して頂けたら助かります！

⇒ [8 のサポート幹事 登録フォームへ](#)

③ これから2019年3月に向け、沢山の中小イベント（全体同期会、学部同期会、クラス・サークル・ゼミ等の各種同期会などなど）を企画開催していきますので、積極的に参加するとともに、沢山の友人たちを誘ってください！！

6 今後のスケジュールは？

2018年5月12日(土)午後 に三田で大同窓会キックオフと懇親会を実施（ぜひご参加ください）

そして、2019年3月(未定) に大同窓会/卒業式

※この間に中小イベントを多数開催する予定です

7 募金は絶対？

慶應義塾の社中協力の精神に賛同頂き、是非ともお願いしたいのですが、

まずは様々な同期会に参加して、同期の絆を深めてください。

そのうえで趣旨に納得できるなら、募金をお願いします。1口 1万円の予定です。

8

まずは連絡先を
こちらに登録してください。



同期会をサポート
して頂ける方はこちらへ。



君にとって慶應義塾とは何か？

それは、遠い日の思い出なのだろうか。

いや、ただそれだけではないと思う。

学問を学び、人との絆を得た。

人生の礎を与えてもらった。

一人一人、考え方も価値観も違うけれど、

みんなそれぞれ、

いまでも見えないペンのバッジをつけて生きているはずだ。

そして、三田会の仲間とは、お互いに励まし合い、

切磋琢磨しながら、ともに歩んでいるのではないだろうか。

間もなく卒業25年。

ちょうど人生の折り返し地点。

からの人生の後半戦をより豊かにするために、

みんなで集まり、語らい、

思いを共有する絶好の時ではないだろうか。

そして、後輩たちへのサポートを自分たちも

受け継いでいくというミッションもある。

自分自身にとって慶應義塾とは何か、

そしていま何ができるのか、

ぜひ考えてみて欲しい。

物語はつづく。



君にとって、慶應義塾とは何か？

いよいよ私たち1994年三田会は、 2019年3月に卒業25周年を迎えます。

1 「卒業25年記念事業」とは？

慶應義塾には、卒業後25年経った塾員を卒業式に招待するという
1953年から続く大切な伝統行事があります。
後輩たちの門出を祝福するだけでなく、
社中の輪を広げ、絆を深めるというのがその目的です。
そして私たち1994年三田会は、
この行事をきっかけに、卒業25年記念事業として3つの事業を行います。

- ① 同期の絆を深める卒業式以来の「大同窓会の開催」
- ② 慶應義塾に対する社中協力の一環としての「募金(奨学金として)」
- ③ 募金を行ってくれた人に渡す「記念誌の発刊(第二の卒業アルバム)」

2 なぜ同期で集まるのか？

人生の折り返し地点にいるいま、
再びみんなで集まり、お互いの絆を再確認し、思いを共有することで、
これから的人生をより豊かにすることができます。
そして、塾への恩返しとして、
後輩たちに伝統と希望を繋いでいくために力を合わせる。

卒業25年記念事業は、三田会において卒業50年とともに代々継承されている
最大の事業イベントと位置づけられているのです。

そのため、2019年3月に行う大同窓会に向けて、
これから大小様々な同期会を開催し、一人でも多くの同期に参加してもらい、
それぞれ絆を深めどんどん盛り上げていこう！と考えています。
つまり、
それまでの期間すべてが「卒業25年のイベントイヤー」なのです！

3 何のために募金するのか？

慶應義塾では、学生を塾生、卒業生を塾員と呼び、これに教職員を合わせたのが
一つのカンパニーであり、福澤先生はこれを「社中」という言葉で表現されました。
目的を共有する者の集まりという意味が込められたのが「社中」です。

慶應義塾を卒業した私たち塾員は、社会に出てから、先輩塾員たちが築いてくださった
高い社会的評価のために大いに助けられてきたのではないか。
また、会社・地域など様々な三田会に所属し、その集まり(社中交歓)に顔を出すなかで、
先輩塾員たちから色々な形でサポートしてもらったこともあるはずです。

慶應義塾に「入社」するということは、一生涯にわたり三田会のネットワークを
自分の味方につけられることを意味します。
だからこそ、自分たちも後輩たちのためにできることをやる使命がある、と思うのです。

現在、慶應義塾は、価値観が大きく変わる激動の時代の中、福澤先生の創業の精神に立ちかえり、
世の中の流行などに惑わされず主体的に世の中を導いていくことのできるリーダーシップを
持った人材を育てることが強く求められています。
その大きな力となるのが、「社中」協力の精神。

社中の協力体制は、慶應義塾がパブリックスクール(義塾)として150年以上にわたり
成長を重ねてきた原動力なのです。
私たちは、自分たちのできることとして、後輩の塾生のために学びの志を経済面から支える
奨学制度のための募金を行いたいと考えています。

4 記念誌とは？

募金を行ってくれた方全員に、2019年3月開催予定の大同窓会での様子
(ゼミ・サークル・会社などの個別の写真撮影があり、それらの写真が中心となります)
をまとめた記念誌を後日発送する予定です。
卒業25周年の記念アルバムとなり、第二の卒業アルバムとも呼ばれて愛されています。
きっと大切な思い出の一冊となるはずです。